

## 2022 年度 第 1 回 一般社団法人日本疫学会理事会 議事録

日時	2022 年(令和 4 年)1 月 26 日(水)18:00-20:15
場 所	Web 開催
出席者	(順不同、敬称略) 理事: 祖父江友孝(理事長)、玉腰暁子(副理事長)、三浦克之(副理事長)、 岡村智教、栗山進一、若井建志、神田秀幸、曾根博仁、片野田耕太、 上原里程、金子聰、関根道和、安田誠史、松尾恵太郎、尾島俊之、 井上茂、小橋元、本庄かおり、郡山千早 新理事: 有馬久富、近藤尚己、福島若葉、村上義孝 第 32 回学術総会会長: 近藤克則 第 33 回学術総会会長: 尾島俊之 監事: 西信雄、横山徹爾、(新)和田恵子 学会事務局: 北村哲久(事務局長)、菊池宏幸(新事務局長)、 西野雅子、糟谷里美
欠 席	井上真奈美

- 理事会に先立ち、祖父江理事長より、旧理事・監事および新理事・監事 26 名の出席により理事会が成立していることが確認された。

### <協議事項>

1. 2021 年度第 3 回一般社団法人日本疫学会理事会議事録(案)は承認された。
2. 2021 年度事業報告について祖父江理事長より、学術総会の開催に関する事業、会誌、研究文書等の企画、制作、編集、刊行に関する事業、調査、研究、情報の収集および提供に関する事業、人材の教育・研修に関する事業、国内外の国、公的機関、学術団体等との連絡、協力、支援、調整、連携および交流に関する事業、資格の認定に関する事業、表彰に関する事業、その他の関連する事業、その他について報告があった。以上の事業報告は 2021 年度第 3 回理事会で承認されている旨説明があった。
3. 2021 年度決算報告書(貸借対照表・正味財産増減計算書)について北村事務局長より報告があった。貸借対照表の正味財産合計は、6,651 万円であった。正味財産増減計算書の経常収益計は 5,175 万円で、経常費用計は 4,430 万円であり、当期経常増減額は 745 万円であった。正味財産期末残高は 6,651 万円で、前述の正味財産合計と一致する。  
2021 年度決算報告について西監事より監査報告があり、承認された。

4. 2022 年度事業計画書について祖父江理事長より、学術総会の開催に関する事業、会誌、研究文書等の企画、制作、編集、刊行に関する事業、調査、研究、情報の収集および提供に関する事業、人材の教育、研修に関する事業、国内外の国、公的機関、学術団体等との連絡、協力、支援、調整、連携および交流に関する事業、資格の認定に関する事業、表彰に関する事業、その他の関連する事業、その他の計画について説明があった。以上の事業計画については、2021 年度第 3 回理事会で承認されているが、修正がないことが確認された。  
続いて、2022 年度予算書について北村事務局長より説明があった。事業活動収入計は 5,685 万円（前年度決算額 5,134 万円）、事業活動支出計は 5,536 万円として計上した。収支差額は 149 万円の予算となる。以上の予算書は昨年 11 月に理事会で承認されているが、修正がないことが確認された。
5. 名誉会員の候補者として前理事会で提案のあった秋葉澄伯氏と森満氏を、第 6 回定時社員総会において提案することになった。
6. 次期役員、委員会構成、委員会メンバー(任期：2022 年 1 月 28 日から 2024 年に開催される社員総会まで)について確認が行なわれ、玉腰新理事長より次の説明があった。新体制では新しく学術委員会を設け、昨年発足した疫学研究推進グループの管轄と疫学教育の推進を行なっていくことになった。また、各委員会のメンバーは、2 つまで重複可能として調整を行なった。  
続いて、委員会とワーキンググループの関係について検討が行なわれ、これまでどおりワーキンググループでの提案・意見を委員会で共有しながら理事会に挙げていくことになった。特に疫学リソース利用促進委員会の倫理問題検討ワーキンググループについては、幅広く倫理問題について検討する必要があるため、疫学リソース利用促進委員会から独立させて倫理問題検討委員会として位置づけることになった。以上の新体制については承認された。
7. 疫学専門家・人材育成委員会の尾島委員長より、新体制化に伴い委員会の名称を「疫学専門家委員会」に変更し、細則も名称変更の改正を行ないたいとの提案があり、承認された。  
また、第 32 回日本疫学会学術総会の完全オンライン開催への変更に伴い、疫学専門家認定筆記試験を延期としたが、受験者の旅費負担等を考慮し、来年開催される第 33 回日本疫学会学術総会日程内での実施が提案され、承認された。
8. 倫理問題検討ワーキンググループの栗山 WG 長より、次の論点について説明があり、今後も検討を継続していくことになった。

論点①：倫理審査が実施されていない、もしくは審査中の演題の登録について演題登録を受け入れて良いか。論点②：演題登録してもらう際、倫理委員会からの承認を得ているかどうかを申告してもらう必要があるか。

9. 総務委員会の北村委員長より、2022年1月より施行された電子データの保存に関する法改正に伴い、「電子取引データの訂正及び削除の防止に関する事務処理規定」の設定が求められている旨の説明があり、規定案が提案され、承認された。
10. 日本医学会連合の門田分担班 社会医学グループの研究について玉腰新理事長より、本年度は学会単位での研究計画と研究費の申請を行なう必要があるとの説明があり、今後理事会メールで意見を募り、研究計画を整えて提出することになった。

#### <報告事項>

1. 祖父江理事長から次の報告があった。
  - 「疫学の事典（仮）」進捗状況については、継続的に作業している。
  - 代議員の異動に伴い、繰り上げ補充が次のように行なわれた。  
異動代議員：児玉暁先生（関東甲信越→ご退会）、上原里程先生（近畿→関東甲信越）、竹内研時先生（中部→北海道・東北）  
就任代議員（12/9）：[中部]井本逸勢先生（愛知県がんセンター）、[近畿]高嶋直敬先生（近畿大学医学部公衆衛生学教室）
  - 理事会メール審議事項の提案は、基本的に理事長に確認の上、事務局より発出したとの報告があった。
    - 日本医学会連合\_領域横断的なフレイル・ロコモ対策WGに係る案件（安田理事からの依頼で発出）（2022/1/11）→特に意見なし
    - 2021年度第3回理事会議事録ご確認のお願い（Journal of Epidemiology に関してご報告並びに審議のお願い）（2022/1/11）→特に修正なし
    - 次期役員によるメール審議：新体制委員会案（11/30）→承認（12/7）
2. 各委員会等から次の報告があった。
  - 1) 疫学リソース利用促進委員会のリンケージ基盤推進WGの若井WG長および既存疫学研究データ資源化・共有・活用ワーキンググループの神田WG長より、2年間の活動についての報告がなされた。
  - 2) 学会等連携推進委員会の曾根博仁委員長より2年間の活動について、特に若手リトリートを全面的にサポートしたことが報告された。また、禁煙推進学術ネット

ワークの片野田耕太 WG 長より、2 年間の活動報告があり、さらに禁煙治療分野に関する要望書について理事会メール審議を行なう予定である旨説明があった。

- 3) 多様性(ダイバーシティー)促進委員会の上原委員長より、2 年間の活動の報告があり、今後の課題として次の項目が挙げられた。①会員登録情報のさらなる集計と分析 ②学会ホームページの英訳項目の定期的な確認 ③「学会に直接参加できない境遇の人のリモート参加をどう考えるか？」についての継続的な検討。
- 4) 広報委員会の金子委員長より、2 年間の活動報告がなされた。また、疫学リテラシー普及促進 WG の安田誠史 WG 長より、2 年間の活動の報告があった。さらに、メディア連携 WG の関根道和 WG 長より、これまでの活動報告とともに、COVID-19 に関連して、リスク・コミュニケーションのあり方が課題となっていることから、疫学調査結果の社会還元のあり方を検討する旨説明があった。
- 5) JE 編集委員会の片野田新委員長より、次の報告があった。
  - JE 編集委員会自体に関して、①2022 年 1 月より EIC が松尾恵太郎委員長から片野田耕太委員長に交代。②前 EIC の下 2021 年 12 月 9 日に編集委員会をオンライン開催。③編集委員会は年 2~3 回を踏襲、うち 1 回は現地を想定
  - 投稿。掲載状況に関して、①2021 年の投稿数は 513。前年 (635) と比べて若干減ったがそれ以前 (200~300 台) よりは多い水準。②採択率は 12% (2021 年 1 月~9 月。年間ではもう少し高くなる見込み)。年間掲載原著論文数が最大 75 編程度であり、採択率は低くならざるをえない。
  - Impact Factor 2020 は、2 年値が 3.211 (前年 3.691) 、5 年値は廃止。
  - Instructions to Authors 改訂 (2021 年 8 月の改訂版を運用中) ①国内著者の会員義務規定の撤廃 ②非会員掲載費用の値上げ ③論文への Data availability statement の必須化 ④Profile 論文の様式改訂 (Intro/Method/Result/Discussion 形式の廃止) 、Profile Update の追加 ⑤新掲載料 7 ページまで 7 万円、8 ページ以上 1 ページにつき 1 万円 (アクセプト原稿は新旧料金が混在)
  - 編集委員会メンバー交代 ①EIC 交代 (松尾恵太郎先生→片野田) ②Deputy editor 交代 (片野田先生、藤原武男先生→近藤尚己先生、浦山ケビン先生) ③Consulting editor 交代 (井上真奈美先生→松尾恵太郎先生) ④AE 退任 (通常 2 期、3 期目は担当エリアの交代がない場合) : 松尾恵太郎先生 3 期満了 (うち 5 年 EIC 併任、Consulting editor に) 、藤原武男先生 3 期満了うち 5 年 Deputy editor 併任) 、内藤真理子先生 3 期満了、林田賢史先生 3 期満了、澤田亨先生 2 期満了、浅尾啓子先生 2 期満了、Jeongseon Kim 先

生 3 期途中（退任希望）⑤AE 新任：中田由夫先生（筑波大学、運動疫学）、田栗正隆先生（横浜市立大学、疫学方法論）、尾瀬功先生（愛知県がんセンター、がん疫学、分子疫学）、Sun-Young Kim 先生（韓国国立がんセンター、がん疫学）

- Paper of the year (POY)、Best Reviewer 選考結果 ①POY : Yosuke Inoue, et al. “Loss of Working Life Years Due to Mortality, Sickness Absence, or Ill-health Retirement: A Comprehensive Approach to Estimating Disease Burden in the Workplace” JE 2021;31:403-409. ②Best Reviewer : Dr. Naoki Nakaya (Tohoku University)、Dr. Mari Oba (National Center of Neurology and Psychiatry)、Dr. Takahiro Otani (Nagoya City University)
- 科研費 国際情報発信：JE 掲載論文の PR 強化（昨年 3 月と同様に、既発行論文を元にプロモーション用の号を作成、JE に投稿してくれる可能性がある海外の研究者に郵送にて送付予定。JECH, Cancer Epidemiol 掲載論文の corresponding author と編集委員会メンバーの知己の研究者対象）
- その他編集委員会での議論など ①SNS の活用（Twitter/Facebook の活用に関する討議が編集委員会で行なわれた。JE 編集委員会で WG を作り、広報委員会メディア WG と連携して進めてはどうか）②JE website の変更（J-STAGE と JEA のサイトが併存して重複項目も多いため、ハンドリングしやすい JEA をメインとして各種 metrics など情報量を増やし、J-STAGE は記事閲覧に特化してはどうか）

6) 国際化推進委員会の井上真奈美委員長に代わり、片野田委員より、2 年間の活動報告がなされた。また、第 33 回学術総会（浜松）で日韓ジョイントセミナーを開催する予定であるとの説明があった。

7) 疫学専門家・人材育成委員会の活動について、尾島委員長より委員会全体の活動報告があった。

- 資格審査 WG より疫学専門家認定の状況について、以下の報告があった。2021 年の上級疫学専門家認定の申請者は 38 名（うち同時申請者 35 名）で、合格者は 35 名である。また（一般）疫学専門家の申請者 33 名が筆記試験を受験予定であった。4 月 1 日の認定日において、上級疫学専門家が 289 名、疫学専門家 34 名となる予定であるとの報告があった。
- 試験作成 WG の井上茂 WG 長より、次の報告があった。認定試験問題のブラッシュアップが終了し、問題がほぼ完成しており、筆記試験の準備を進めている

たが、第 32 回学術総会が完全オンライン開催となったことに伴い、筆記試験を延期することになった。

- 社会医学系専門医協会関係では、引き続き専門医協会への協力を継続する旨の報告があった。
- 疫学教育推進 WG の本庄 WG 長からは、2 年間の活動の報告があった。2021 年度はサマーセミナーを開催した。また、第 32 回日本疫学会学術総会におけるプレセミナーの企画について、企画 1 「いま改めて『欠測データ』の解析について考える」と企画 2 「査読のいろは」が実施された。  
さらに、歴代のプレセミナーを企画頂いた先生方へ感謝状を贈呈することになった。

- 8) COI 委員会の郡山委員長より、2 年間の活動報告とともに、COI 自己申告のオンライン化（2022 年度導入予定）の準備を進めているとの説明があった。
  - 9) 選挙規定検討委員会の郡山委員長より、2 年間の活動報告がなされた。また、代議員の地域偏在について、今後検討していくとの説明があった。
  - 10) 総務委員会の北村委員長より、2 年間の活動の報告が行なわれた。
3. 第 32 回日本疫学会学術総会の準備状況について、近藤克則学会長より説明があった。
  4. 第 33 回日本疫学会学術総会の準備状況について、尾島俊之学会長より次の説明があった。①開催日時：2023 年 2 月 1 日(水)～2 月 3 日(金) ②テーマ：総合知による健康・幸福の向上 ③会場：アクトシティ浜松 ④開催形態：集合会場を基本にして、一部オンライン併用 ⑤運営会社は公募開始 ⑥事務局長：中村美詠子先生（浜松医科大学）。また、浜松・浜名湖ツーリズムビューローのコンベンション開催助成金に、日韓ジョイントセミナーの開催予定年のため、国際学会として申請予定である等の説明があった。
  5. GMRC 制度委員会の活動について、担当の玉腰新理事長より次の報告があった。① GMRC 有資格者は、283 名（2022/1/11 現在）で、そのうち 48 名が日本疫学会会員である。②第 14 回 GMRC 認定制度講習会・試験が実施された。③GMRC 認定資格更新手続きが行われる予定である。④第 32 回日本疫学会学術総会への参加と関連行事等の受講によるポイント取得が可能である。

6. 学会事務局活動および庶務について、北村事務局長より次の報告があった。

1) 学会事務局活動

- 会費・冊子代の請求書郵送（11/30）
- ホームページの更新：事務局からのお知らせ、関連団体からのお知らせ、細則（改訂版）の掲載
- 会計年度末締め、決算書（案）作成、監査準備、監査立会い（1/11）
- 理事長ミーティング（11/1、12/2、1/66）
- 次期理事長ミーティング（11/29、12/24）
- 社員総会準備（議事案作成、開催案内、委任状回収、配布資料、スライド準備）
- 役員変更登記の準備（新理事本人確認資料の依頼、就任承諾書準備）
- 各種賞結果通知。授賞式準備
- 学術総会準備
- 第1回理事会開催準備（理事長・事務局長打合せ@Web 1/14）
- 「はじめて学ぶやさしい疫学」第3版 第4刷 7500部増刷了承
- 委員会活動の支援：次期委員会構成の確認、JE編集委員会（掲載料の請求、冊子注文受付、科研費管理）、疫学専門家・人材育成委員会（資格審査WGのWeb試験中止に伴うWeb会議補助）、広報委員会（ニュースレター発行スケジュール管理）、選挙管理委員会（代議員の繰り上げ補充）
- 関連団体への対応（日本医学会、日本医学会連合、パブリックコメント）
- 社会医学系専門医協会：専門医・指導医の単位取得のための受講証明書発行についての調整・確認

2) 庶務報告

- 会員数(2022年1月1日現在)：名誉会員：31名、代議員：209名、普通会員：2,290名(合計：2,530名)  
    ※普通会員のうち2021年度入会学生：94名
- 年会費納入状況（2021年1月10日現在）：2021年度会費の納入義務のある会員：2,396名、2021年度までの会費納入完了者：2,116名、88%）、2年以上（2019年度から）の滞納者：146名
- 疫学会通信（2022年1月1日現在）登録者数2,507名（99%）2021年発行回数69回（選挙関連メール含む）

以上